



# まち育て「幻燈師塾」

## 延藤安弘開陳



### 第三部 幻燈師になる 発表と学びあい



いよいよ、幻燈師体験です。ひとり3分の発表に延藤先生がそれぞれにアドバイスをしてくださいました。同じ道を歩いて撮影してできた物語、発表者二十名の物語は、一つとして同じものがありませんでした。次はどんな物語だろう・・・と、見ている側も全く飽きることはない幻燈会でした。

そして、延藤先生の助手としていつも一緒に講座をしていただいている名畑恵さんによる「幻燈師塾の一日」を追った物語では、熱血塾生の姿に笑いが耐えませんでした。

さらに、延藤先生によるモデル発表、同じように撮影していたはずなのに塾生が気づくことのなかった様々なヒト・モノ・コトが映し出され、そのすばらしさに感動でした。

最後は、これから幻燈師になる塾生への応援メッセージとしてのキーワードを、頭韻要約法で『ながのげんとら』とまとめられました。

今後、幻燈師の活躍が期待されます。ながの幻燈師による幻燈会が開かれるのも夢ではないでしょう。

### ながのげんとら

思いを伝えること、それは、説明ではなく相手の心に届く言葉を投げかけること・・・

元祖幻燈師、延藤安弘先生が行う幻燈会では、その世界に引き込まれ心になにかポツとなるあったかいものを感じます。言葉では表現しにくいけど何かに響く、「あ・・・そういうことなんだ」と、聞いた人それぞれが思うことができる。そんな風に、自分の思いを伝えることができました・・・延藤先生のような幻燈を行うことができましたら・・・

そこで、延藤先生を迎えて「自ら幻燈師となってまち育てをする人になろう!」と、幻燈師塾が開催されました。

十一月二十四日、三連休の真ん中の日、午前九時から始まった講座は、夜の九時までという十二時間耐えでしたが、時間が経つのを忘れてしまうほど熱中した一日になりました。

幻燈師を目指したみなさんの結果はいかに？

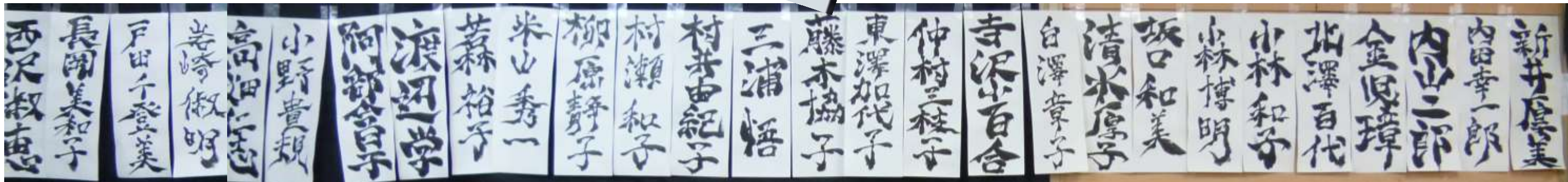
第一部 げんとく

(幻燈と語り)

第一部は幻燈師延藤先生によるプレゼンテーション、「画像と画像の間に『縁が輪』の物語を紡ぐ」と題して幻燈会、幻燈師の撮影術、物語術を学びました。

幻燈会とは、「ひとりの心に幻をひろげ、別のひとりの心に燈をともし」こと。絵本や参加のまちづくりの生きのいい現場の様子を次々と映写し、語りかけていくこと。ヒト・モノ・コト・トキの生き生きとした関係を物語的にプレゼンテーションすること。参加者の心に共感的、受容的、肯定的感情を促し、人々の内に潜在しているものに未来への変化、顕在エネルギーを引き出す有効なコミュニケーション技法だ、とお話されました。

撮影術、物語術では、延藤先生のこれまでの技術を丸ごと伝授していただきました。  
延藤安弘開陳！です



「講座のときは、ひそかにウォーミングアップしています。」ここまで、伝授していただきました

幻燈師塾の一日を撮影し続けた助手の名畑さん、延藤先生の姿とそっくり？ →



じつは私も先生と同じ角度になりませう！  
この瞬間が素晴らしい！

第二部 まち歩きと撮影・物語づくりの実践

第二部は、実際に町に出て撮影をしました。延藤先生の撮影の視点がどのようなところにあるのか、一挙手一投足に目がくぎづけ？でした。まち歩きをするといろいろなことに出会い新たな発見があります。ヒトと話をしたり、各々の感じたコトやモノを撮影しました。



↑撮影する塾生のみなさん、真剣そのもの



↓町で出会った若いお母さん、お話を聞きます



撮影した写真をもとに物語を作る作業です。思いを伝えるための写真、順番、テーマ……それぞれの視点で作られていきます。